



市災害公営住宅（作町東団地）

ふるさとといわきの力強い復興と再生の実現

〇生活再建に向けた取り組み

▼災害公営住宅の整備など
「災害公営住宅整備事業」については、平成二十七年途中で千五百十三戸の住宅全てが入居可能となるよう工事を進めています。

「防災集団移転促進事業」については、三月までに、全ての地区で宅地の引き渡し手続きを終了させるとともに、「震災復興土地区画整理事業」については、宅地造成工事を本格的に実施していきます。



住宅除染の着実な推進

▼原子力災害への対応
福島第二原子力発電所の廃炉をはじめ、福島第一原子力発電所に係る万全の安全対策や、汚染水対策の実施と、市民の皆さんへの説明責任を果たすことについて、国および東京電力に、引き続き強く申し入れています。

加えて、市の原子力災害広域避難計画を策定するほか、防護措置や避難手法などの必要な事項に関する手引きを作成し、全世帯に配布します。

▼住宅除染
昨年十月に改定した除染実施計画に基づき、着実な推進に努めるほか、放射線医学に関する調査研究等機関の本市への誘致に向けた取り組みも進めています。



3月に供用開始予定の魚市場

〇地域経済の復興・再生

▼農林水産業
三月には、小名浜港において新たな魚市場などの供用が予定されていることから、それを一つの契機として、水揚げの回復など本市の水産業の復活に向けた足掛かりにします。

また、力強い農林業の実現と震災からの復興に向けて「農業・農村振興基本計画」や「森林・林業・木材産業振興プラン」の見直しなどにも取り組みながら、一次産業の持続的発展に努めています。

▼工業
「福島復興・浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業」では、二基目となる世界最大級の出力七メガワット風車による発電が予定されていることから、事業化実現に向け官民の連携を一層強化するほか、「新・市工業振興ビジョン」に位置付けられた各種施策を機動的に展開し、関連企業の誘致や地元企業の参入等に努めています。

▼観光業
四月から六月に「ふくしまステイネーションキャンペーン」で、五月に「いわき太平洋・島サミット2015」が開催されることから、この機会に本市の安全性や復興の姿、さらには本市の魅力や国内外に発信し、風評払拭と交流人口の増加に努めています。

〇「医・職・住」の課題解消に向けた対応

▼「医」（医療）
福島県立医科大学内に寄附講座を設置し、総合磐城共立病院へ三人の医師が派遣される。

▼「職」の確保
福島県立医科大学内に寄附講座を設置し、総合磐城共立病院へ三人の医師が派遣される。



島サミットのプレイベントとして開催した昨年の太平洋諸国舞踊祭



小名浜港で組み立て中の世界最大級浮体式風車

遭され、産婦人科医療体制の充実が図られたことから、今後についても、さらなる医師の確保に向け、関係機関に粘り強く働き掛けを行っていきます。



今年の市政運営について年頭所感を述べる清水市長

新春市長記者会見で、清水市長は、まず昨年の本市における明るい話題や市民の皆さんに勇気と希望を与えたさまざまな出来事を振り返り、復興の大きな弾みになっていると述べました。今後の市政運営の基本的な考え方については「ふるさとといわきの力強い復興と再生の実現」に全力で取り組むとともに、医療、職・雇用、住居のいわゆる「医・職・住」の課題の解消に向け、引き続き積極的に取り組むこととしました。

また「将来に向けたまちづくりの推進」を通して

平成二十七年新春市長記者会見を一月六日、市役所で行いました。清水敏男市長は、今年の市政運営について年頭所感を述べ、今後のまちづくりの考え方を明らかにしました。今月号では、その概要についてお知らせします。

「明るく元気ないわき市」の礎をしっかりと築き上げる年にすることを表明しました。

さらに、今年は、常磐自動車道の全線開通や、JR常磐線の特急列車の品川駅乗り入れが開始されるなど、多様な交流や触れ合いの機会が生じてきます。

このことから、今後は、復興事業を着実に仕上げていくことに加え、文化・芸術・スポーツなどによる交流や触れ合いの機会を創出し、市民の皆さん一人一人にさらなる勇気や元気を宿すような「心の復興」にも取り組みながら、「明るく



「明るく元気ないわき市」の創造を目指して

元気ないわき市」の創造を目指して、全身全霊をかける決意であることを示しました。



市総合防災訓練

○安全・安心に生活できる
社会の構築

▼地域の防災力を強化
各地区での防災ワークショップの開催や、自主防災組織で防災の基礎知識や技能を有する防災士を新たに養成するなど、地域の防災力を高めています。

▼高齢者の安全・安心
平成二十七年からスタートする「第七次市高齢者保健福祉計画」などに基づき、高齢者一人一人が、可能な限り住み慣れた地域で日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、生活支援などが包

括的に、切れ目なく確保される体制を構築すべく各種施策を展開していきます。

▼障がい者の安全・安心
日常生活用具給付事業において、緊急情報を受信すると、自動で起動する防災ラジオを、新たに給付品目に追加します。

○魅力あふれる地域の創生
▼市街地の賑わい再生
都市機能の増進や経済活力の向上を図るため「中心市街地活性化基本計画」を策定します。また、震災後の状況の変化を踏まえ、本市の観光拠点である湯本地区の賑わい再生を図るため、地区まちづくり計画の改定



シルバーリハビリ体操で介護予防



湯本地区の賑わい再生に向けて

に付け、地域との協議に着手していきます。

▼中山間地域の活性化
集落の状況を把握し、維持・活性化に向けた取り組みを行うため「集落支援員」を大幅に増員します。また、大都市圏から人材を募集し、地域に暮らしながら、住民とともに地域おこしに取り組む事業を新たに実施していきます。

▼被災沿岸地域の復興
地域の復興、再生の指針として、地域と行政の協働で策定している復興グラウンドデザインに基づき、地域が取り組む活動を支援する仕組みを新たに構築し、復興の加速化に取り組んでいます。

平成27年新春市民交歓会を開催

新春市民交歓会を1月6日、パレスいわやで開催しました。

今年の新春市民交歓会には、市民の皆さんや市内に事業所を有する方々約550人が参加しました。同交歓会では、県篤土木工業連合会いわき支部による「木やり」が披露され、市長と市商工会議所会頭のあいさつの後、来賓の方々からの祝辞、鏡開きなどを行い、お互いの健勝と市の復興ならびに、さらなる飛躍を祈念しました。

また、会場では、スパリゾートハワイアンズのフラガールによるステージも繰り広げられ、参加者から大きな歓声を受けていました。



▼市制施行五十周年の機運の醸成
平成二十八年の市制施行五十周年記念事業に、市民の皆さんからの提案を反映するため、五月に「プレゼン大会」を開催します。さ

らに、五十周年に併せて実施する「(仮称)いわきサシヤイン博」についても、官民一体で組織した検討会で、地域の魅力を高め、市内外に発信する取り組みを検討していきます。



新病院建設事業の事業契約締結式

▼医療の充実
総合磐城共立病院については、高度・先進医療や救急医療などのさらなる充実を図るため、平成二十九年度の新病院開院を目指して建設事業者と、昨年九月に契約を締結したことから、平成二十七年は本体内工事に着手していきます。

さらに、同病院内に設置している休日夜間急病診療所については、市総合保健福祉センター駐車場内に新設整備することとし、平成二十八年の供用を目指して、今後、設計・建設工事に着手していきます。

○「職」(職・雇用)
▼産業振興策と雇用対策
風力、太陽光、木質バイオマスなどの再生可能エネルギー関連産業の振興をはじめ、成長分野である医療機器産業や蓄電池産業、新しい産業分野である原発の廃炉やロボット産業などの集積と振興に取り組めます。

▼イノベーション・コースト構想
国・県が設置する会議に参画し、本市の地理的特性や産業集積を生かして、浜通りの復興に向けた「ゲートウェイ」の役割を担うという基本的な考え方に基づき、国際産学連携拠点やエネルギー関連産業など主要なプロジェクトの誘致を実現できるよう、積極的に取り組んでいきます。

○「住」(住居)
▼住環境の早期改善
「市街地調整区域における地区計画制度の運用基準」を策定するとともに、市街地に隣接・近接する候補地を十九カ所選定しました。全ての候補地で地区説明会を完了させ、早期に住宅用地としての供給が可能

となるよう、関係者などとの円滑な調整に努めていきます。

▼町外コミュニケーション
県の復興公営住宅整備に伴う渋滞解消を図る市道の改良等を進めるほか、避難者の皆さんが、地域に溶け込み良好なコミュニケーションを形成できるよう、パークゴルフ場や市民農園などの整備を県に要望し、その実現に向け、双葉郡の首長と連携を図りながら取り組んでいきます。

将来に向けたまちづくりの推進

○子育て支援の充実と教育先進都市の実現
▼「こどもみらい部」の新設
四月から「こどもみらい部」を新設し、子ども・子育て支援を包括的に実施するほか、国の制度改革を踏まえ、教育委員会とこれまでに以上に連携を図りながら、教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定していきます。

▼学びの場の充実
学校図書館司書を全小学

校に配置するとともに、土曜日に学校などを活用して、家庭・公民館等が連携した教育活動をモデル的に実施していきます。

▼環境の整備
学校施設の耐震化を進めるほか、学校の小規模化が進行する三和地区では、地区との協議に基づき、中学校一校ずつに再編するなど、よりよい教育環境の確保に努めていきます。

さらに、子どもたちが思いきり遊び、運動できる環境を整備するため「(仮称)なこそ子ども元気パーク」や、大型の複合遊具を新設する松ヶ岡公園の平成二十七年内完成を目指します。



鮫川河川敷でのパークゴルフ



松ヶ岡第二公園大型遊具のイメージ



(仮称) なこそ子ども元気パークのイメージ